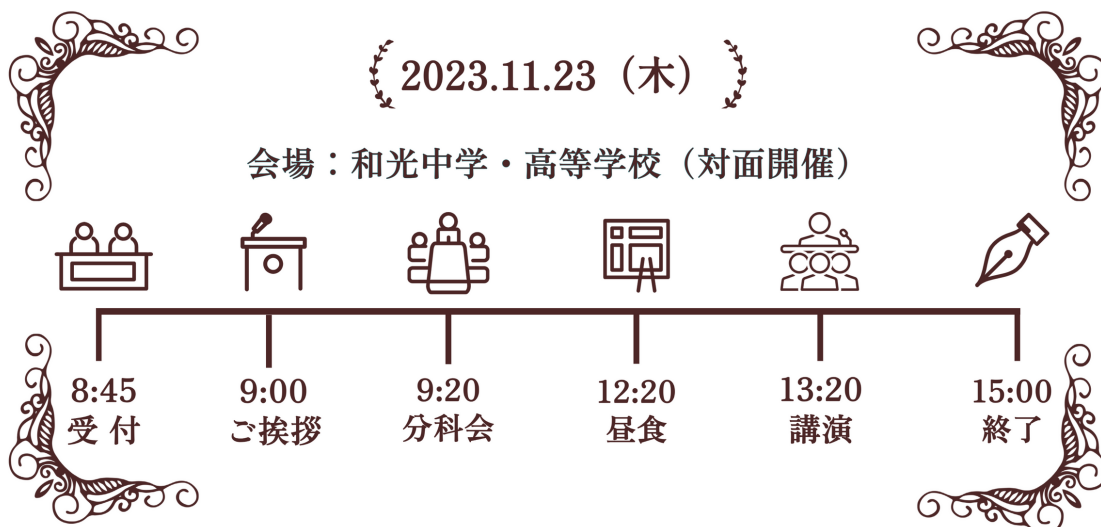


第50回和光中学・高等学校 教育研究集会のご案内

学校で学ぶ意味 コロナ禍を経て見えた学校のあり方を語りあう

2023.11.23 (木)

会場：和光中学・高等学校（対面開催）



講演 学校はデジタルテクノロジーとどう対峙していくのか

豊福晋平氏

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授・主幹研究員
主要著作

- 『自ら語れば学校はもっと愛される——学校広報の視点から学校ホームページを考える』(PLANXUS 2016年)
- 『子どもの未来と情報社会の教育』(共著 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 2016年)
- 『小学生の先生のためのWhy!?プログラミング授業活用ガイド』(共著 日経BP 2018年)
- 『デジタル・シティズンシップ——コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び』(共著 大月書店 2020年)
- 『2030年代のデジタル学習論 教育DXの構想と実践』智場#124特集号(共著・責任編集 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 2022年)

和光中学校では1人1台端末を持ち、和光高校では1年生の必修に情報の授業があります。中高全体では授業、生徒会、HR、教員集団などでICTを適宜活用しています。

「デジタルをよく使う」とはどういうことなのでしょう。

インターネット普及以降、社会の急速な変化に伴い、IT、ICT、GIGAスクール構想、教育DXといった用語が教育界に飛び交っています。それらの概念を知り、受けとめ選択し、学校教育にどのように盛り込んでいくことが生徒たちにとって望ましいのかを、講師とともに考えていきます。



<p>第1分科会</p>	<p>「いつもの社会科の授業」を考える</p> <p>和光中学校に勤めて23年。教材編成や研究の自由を当たり前享受し授業を行ってきた。先輩の社会科教員が、やりたいことだらけでウズウズしている様子に焦りを覚えながら、日々の生徒指導や会議、行事準備に追われ、もう少し時間があれば……と迎える授業の時間もある。</p> <p>様々な価値観が溢れる世の中で、生徒たちが「自分なりの視点を持つ」ことを中学生が学ぶ3年間の社会科のゴールに据えながらも、生徒たちと共に『平和な世界』をつくることを目指す試みこそが社会科の学びの本質にあると考えて授業づくりに取り組んでいる。自分が授業をつくっていく上で“ココは外せない！”と考えていること、“自分のこだわり”や“自分のテーマ”を皆さんと共有し、検討して頂きたい。</p>	<p>報告者 河合 民</p> <p>共同研究者 松山尚寿氏 法政大学社会学部 非常勤講師</p>
<p>第2分科会</p>	<p>中2 音楽科と国語科の教科横断授業 ～古典の世界を作曲する～</p> <p>教科横断的な授業を構想するには、それぞれの教科で求められる細かな指導内容から考えるのではなく、教科を超えた大きな「概念」から構想することが大事だと考えています。今回は「日本の伝統文化」という概念から音楽科と国語科で教科横断的な授業を行いました。国語科では「古典文学を味わう学習」を、音楽科では「古典文学の知識を生かした作曲の学習」を行いました。</p> <p>教科横断的な学習は学びのスパイラルを形成します。いささか縁遠い古典の世界を中学生が自分自身の言葉と音で捉え直し、美しい映像表現に展開しました。その実践について報告します。</p>	<p>報告者 青柳貴宏 荒井真由美</p> <p>共同研究者 中原聡章氏 市立札幌開成中等教育 学校芸術科(音楽)教諭 北海道音楽教育連盟札幌 中学校支部 研究副部長 国際及び日本コーデ イ協会会員</p>
<p>第3分科会</p>	<p>生成AI時代のデジタルシチズンシップ教育</p> <p>和光高校1年必修「情報」では、現実社会で今まさに起きている事からについて取り上げ、自分事として考えていくことができるような教材を選定し、さまざまな学習手法を通して学びを深めていくことを大切にしています。</p> <p>今年度、デジタルシチズンシップ教育の内容として「生成AIの活用について」を取り上げました。生徒自身がChatGPTを利用し、その回答を評価することをはじめ、さまざまなワークショップやディスカッションを取り入れた授業プランを構成しました。本分科会では、その授業プランだけでなく生徒のフィードバックや作品も具体的に紹介し、未来を生きる生徒たちのためにどのような学びが必要なのか、参加者とともに議論していきます。</p>	<p>報告者 小池 則行</p> <p>共同研究者 豊福晋平氏 国際大学GLOCOM 准教授・主幹研究員</p>
<p>第4分科会</p>	<p>高校1年生のクラスづくり ～生徒の期待をつなげてつくる学びの場～</p> <p>コロナ禍の学校では個々の学習法が探られ、集団で学ぶ意味を問いながらも振り返る場が少ないと感じています。一方、当事者の高校生たちは、不安を抱えながらも新しい環境での学びに期待を持って入学してきています。その期待をつなぎ、励まし、どう一緒に学校生活を作るかが問われていると受け止めています。改めて学校という場を生かして学ぶことを、柔軟に真剣に考え、取り組みました。クラスの構成員によって作り方やクラスは異なっていきます。</p> <p>本分科会では、高校生活スタートである、1年生前半の取り組みを中心に、2つのクラスを取り上げ、学びの場で何が大切なのかを一緒に考えられたらと思っています。</p>	<p>報告者 内藤美紀</p> <p>共同研究者 藤田隆介氏 大阪高生研事務局 大阪緑涼高等学校 非常勤講師</p>

申込み 8月1日(火)～11月14日(火) 締切後は当日受付にてお申込みください。

参加対象 教職員(現職・退職)、教育研究者、大学生に限定させていただきます。

参加費 500円(大学生無料)

昼食 ご持参いただくか、事前にフォームにてお申込みください(代金1180円)。
学校近辺にコンビニエンスストアもあります。

交通機関 小田急線「鶴川駅」下車 バス2番のりば「鶴川団地行」折り返し場下車 ほか
京王相模原線「若葉台駅」下車 バス「鶴川駅行」和光学園下車 *休日ダイヤ

問い合わせ 和光中学・高等学校 〒195-0051 東京都町田市真光寺町1291 ☎(042)734-3401

URL <https://sites.google.com/wako.ed.jp/2023>



お申込みはこちらから